



農水省の需給予測の不手際から令和のコメ騒動が起きた。消費者の手元には4500円/5kg越えのコメが出回りスーパーからコメが消えた。生産者、JA、卸会社も悪戦苦闘する中で投機筋まで動き、日本型食生活の主食であるコメが揺らいだ。私は長野県米を考える会長として「水田の重要性、コメを中心とした農村文化の持続的な継続が何より大事」と欧米のような農家への所得補償も訴えてきた。

若い人の農業離れは深刻で農地の25%は相続されず荒廃している。若い担い手が農業で子育てするにはJAえちご上越は540万円/年が必要であるとした。政府は「需要に応じた生産」として消費拡大が政府の役割としたが、昭和46年から始まった減反政策下でコメ消費が拡大した年はなかった。農政の権限はすべて農水省が握っていて地方に権限を渡していない。生産者・消費者が注目している。

わくわく滾々、現場から始まる 長くつ友に、前へ確かな歩み

星 辰

No.101
長野市大字南長野
幅下692の2
TEL026-232-0111
県政だより
発行責任者
宮澤敏文
mt@miyazawa-toshihumi.com
星辰とは、変わるこ
とのないもの、理想

1997年11月参議院WTOカットウルグアイラウンド特別委員会に長野県米を考える会長として参考人質疑を受ける「減反政策の進行で水の里安曇野から夕立がなくなった。」と水田の多様な機能を力説した宮澤敏文会長(当時42歳)



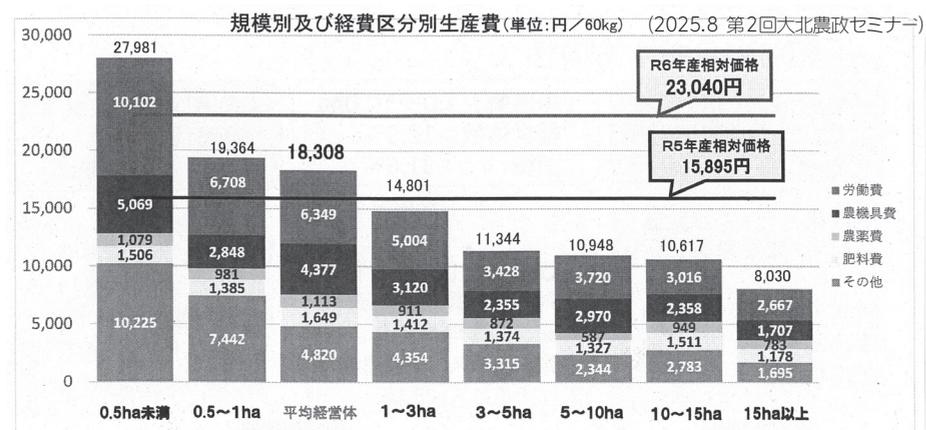
新しい時代が明けようとしています。ロシアのウクライナ侵攻から世界が「力で課題を解決」しようとする機運が満ちる中で、しっかりとした「個々の人の判断」が何より重要な時代だと痛感します。

平成6年11月の参議院WTOウルグアイラウンド特別委員会の参考人質疑を長野県米を考える会長として体験しました。

「四季の趣を愛で、自然とともに生きる日本人が、日本らしくあるためには循環の源である水田づくりが必要だ。減反政策の強化で水の里安曇野から夕立が消えました。」と訴えました。

農業者は2010年約200万人、2025年には約100万人に、2040年は30万人に減るとされ、現に長野県では基幹的農業組織がこの4年間で20%なくなりました。農業で子育てができる産業にしなければ、「食料は何より大事、誰が農業をするか。」正面から考えていかなければなりません。

モノづくりや建設建築産業界、医療福祉分野の人手不足が深刻です。私は10数年前から「県立高校の独壇場である専門高校を高度化・機能強化して中学生の選



折肢を増やす。地域産業と連携し地域と現場で学ぶ専門高校の専攻科5年制設置に懸命に取り組んできました。新高校懇話会では対象高校生代表から専攻科への願いが出されています。令和8年は南農・穂高商・池田工の3校の安曇野新校の授業内容と校舎設置場所論議の山場に入ります。

クマの被害が多発しています。ライチョウの保護育成・山小屋の公益性を実現する為に立ち上げた長野県議会山岳環境保全協議会で全国に先駆けガバメントハンターの導入を何回も環境省に陳情してきました。やっと来年初めから国が動き制度化し、市町村でのガバメントハンター(鳥獣対策専門職員設置)となります。その研修も県下初で松川村でスタートします。よる野生鳥獣対策に期待します。

いま、病院や福祉施設の経営は大変な危機にあります。国の医療介護報酬のアップは当然ですが、公立病院の県市負担は拡大していますが補助金なしの公的病院を行政が支える時代に入りました。市町村議会も含め真剣に議論し合う時です。



長野県食育推進会議会長として長野県の食育をリードしてきた宮澤敏文の提案で、松川村榛葉会長らが力を入れる「おにぎり体験」を全国の修学旅行生たちにと観光事業者を集め体験会を開催、好評であった。(銀座ナガノ)



長野県の農産物輸出の51%は台湾である。台湾の物産展も大町、白馬、池田、そして今回は中村村長のトップセールスもあり小谷村中心に開催。大盛況であった。来年は最終回で松川村である。

北アルプス山麓地域では、小谷村の悲願「命を結ぶ道」地域高規格雨中月岡道路が開通しました。当日子どもたちや地元の人々と熱い思いで新道を歩きました。今後学校のある塩水地域、動くトンネル外沢とミズゴケが求められる北小谷地区、着々進む仮称安曇野北インター周辺、大町地区、松川等現道利用区間の住民とともに新潟県を含めた広域的な素早い取り組みを進めていきたいと思います。

雪崩土石流災害から2年、白馬村黒豆沢の復旧状況を雪道を歩き確認しましたが、連日水雨の中皆さん説明に回ったこと思い出しました。事業者の皆さんを始め関係者の尽力で今年も白馬村は観光客でにぎわい白馬の誇りリーゼンコースを楽しんでいます。

批判からは何も生まれません。「現場に答えあり、誇りである長靴を友とし現場から始まる確実に実現する政治」を買いしていきます。

長野県議会議員 宮澤敏文

小谷村の悲願、命を結ぶ道地域高規格雨中月岡道路（松糸予定） 開通

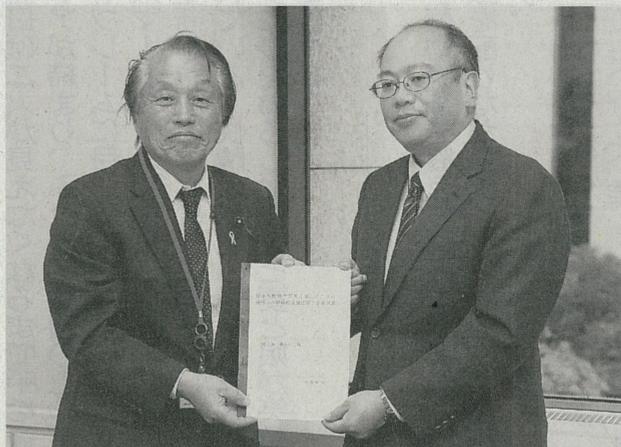


大勢の子供たちの元気な声がトンネル内にこだまする中で、ドクターヘリが飛行距離の外にあり、地域高規格松本糸魚川連絡道路を「命を結ぶ道」と呼ぶ所以である小谷村地域、長きにわたる地域の悲願が、長野県建設部の英知と工夫、事業者の高い技術力で見事に難工事を克服し、地域高規格として初めて雨中月岡道路が開通しました。未曾有の平成7年7月の県北部の大災害でずたずたになった当地域、県や村関係者の懸命な尽力で復旧できた大系線を喜び合う中で、次は地域高規格道路と地域を挙げて願い、水が多くわさびが生育するほど、稀に見る脆弱な雨中の現場をまず砂防事業で固め、トンネル掘削、何十回も現地を歩き、共に汗してきた者として、係ったすべての人たちに、この本会議場で地元を代表して心から感謝します。(11月県議会本会議質問)

全国初 ガバメントハンター制度決定

宮澤県議の10年前からの提案国へ届く（県議会山岳環境保全議連会長）

長野の山岳環境保全対策議員連盟



橋本官房審議員(左)に要望書を手渡す宮澤会長(11日、東京都千代田区で)

ガバメントハンター確保へ

総務省、農水省 環境省を訪問 財政支援求める

構築すること、必要とを要望した。な支援策を充実するこ 3省への要請後、宮

澤会長は「ガバメントハンターを中心とした野生鳥獣対策のチームを各市町村に設けることで、ただ駆除するのではなく共生が目指せる」と強調した。先進事例として、長野県モデルを構築する考えも示した。(黄色はスタッフ)(日本農業新聞全国版)

長野県議会の超党派でつくる「山岳環境保全対策議員連盟」は11日、総務省、農水省、環境省を訪問し、熊を含む野生鳥獣被害対策の強化を要望した。全国各地で熊による人身被害が多発していることから、総務省に対し、狩猟免許を持つ自治体職員「ガバメントハンター」の確保に向けた財政的な支援を求めた。

同議連の宮澤敏文会長が東京都千代田区の総務省自治財政局を訪ね、橋本憲次郎官房審議員に要望書を手渡した。

要望書では、地域の野生鳥獣対策を効果的に推進していく上で、ガバメントハンターが重要な鍵になると指

摘。ガバメントハンターの雇用、育成などにかかる費用を国の特別交付税措置(充当率10分の10)の対象にするよう求めた。

ガバメントハンターが地域に根付いて持続的に活動できるように、農水省と環境省には、人材育成の制度設計を



ものづくりの産業界の人手不足は極めて深刻である。「企業は専門高校生が欲しい。地元で専門力を習得する専攻科5年制高校を実現してほしい。」「若い人たちが家族で遊べるテーマパークの立地を」中信労働団体協議会小沢議長、連合大北伊藤議長、宮澤県議の知事への熱い要望がされた。

宮澤敏文県議の一日 2025年12月5日

- 7:40 自宅 8時23分 明科駅
- 9:30 高校再編案と質問内容の会議
- 10:00 本会議 ○昼食休憩時 県交通政策局と大系線シンポ(12/13)の会議
- 13:00 本会議 14:30本会議質問
①地域高規格雨中月岡道路 塩水、外沢 ②警察音楽隊への支援、③人手不足時代県・市町村・JA職員の副業振興の推進 ④専門高校の役割と充実・安曇野新校対象校の生徒代表が望む専攻科設置への決断
- 15:30 県林務部と大北森林組合長からの報告会議
- 16:15 鳥獣対策課とガバメントハンターについての会議
- 17:00 JA中央会、全農長野、厚生連、信連、共済連幹部との会議(JA農協議員懇話会)
- 18:11 JRしなの 18:50明科駅着 運転して
- 19:15 中信労働安曇野地区委員会懇談会 20:50帰宅



宮澤県議は現場第一に365日出動体制を続けてきた。現場が大事と定期的に山崩れ箇所など空からヘリコプター調査も活用している(5月)